

新聞を活用した「表現探究」による学習の基盤となる資質・能力の育成

奈良県立香芝高等学校表現探究コース

1. 表現探究コースの概要

表現探究コースは言葉による表現を基本とし、プレゼンテーションや創作活動、探究的な学習を通して、言語能力や情報活用能力、コミュニケーション能力を身に付けた創造性豊かな人材の育成を目的としたコースである。

また、新設時からNIE実践指定校となっており、日々新聞が届けられ、新聞を活用した学びを実践している。

2. 「つかう」学びと「つくる」学び

新聞を活用した学びとして、「つかう」、「つくる」の2つの視点から学びを考察する。

2.1 「つかう」学び

阪神淡路大震災が発生した当時の新聞と現在の新聞を読み比べ、記事の大きさと内容を比較した。当時の新聞は複数の新聞社で大きく取り上げられていたが、現在の新聞は一社の新聞社のみが取り上げており記事が小さくなっていった。一方で当時の新聞を比較すると、被災者の数を示したり火災蔓延を伝えたりなど、異なる視点による見出しとなっていることが分かった。

また授業だけでなく、日々の日直活動としてその日の新聞記事から気になった記事を切り抜き、自分の感想を書く活動を行った。

2.2 「つくる」学び

はじめに、インタビューする内容を相手の取材先の情報をもとに検討した。次に実際にインタビューを行うが、事前に友人や教頭先生などにインタビューする中で、一問一答の会話ではなく、追質問を考え相手の情報をより深く知ることが重要であると学んだ。インタビュー後は、その内容をもとに新聞記事を作成した。作成した記事は、先生方の添削の後、グループで相互評価を行った。



これらの活動について、取材先を変えて繰り返し行うが、これは文部科学省の探究学習の流れで

ある「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」に合致している。

3. 学習内容の成果

新聞を活用した授業を行うことで、学習の基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の涵養だけでなく語彙力が豊富になり、話す力や聞く力の向上につながったと考えられる。さらに異なる新聞社の記事の比較を行うことで、色々な視点から物事をとらえる力が身に付いた。

また新聞を活用した実践として、1期生の希望者と2期生全員が、ニュース検定3級に挑戦し、1期生の受験者の合格率が全国平均を上回った。その後も挑戦を続けた生徒の中には、準2級を取得した生徒が3名いた。

新聞を活用した学びやニュース検定の学習を通してメディアリテラシーの向上も見られたと考えられる。情報活用能力の意識調査でも、「情報の客観性について考えながら情報をいろんな角度から検討することができる」と肯定的に答えた生徒が、入学時比で約1.7倍増えた。

4. 今後の展望

新たな授業の提案として、新聞と理科や数学を掛け合わせた授業を挙げる。1つは、新聞と理科を組み合わせて、過去の震災の記事を題材にし、地学の視点から問題解決について話し合う授業である。また、新聞と数学を組み合わせて、新聞記事から感染症の感染者数の推移を調べ、グラフや表にまとめる授業などが挙げられる。これらの授業を通して、教科の枠を超えて知見が広がり、文章から情報を読み取る力も養われると考える。

参考文献 奈良県立香芝高等学校表現探究コース
<http://www.e-net.nara.jp/hs/kashiba/index.cfm/1,0,69,html>